

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 名称 東京都立竹台高等学校 学校運営連絡協議会 (全日制課程)
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(総務主任兼務)＝事務局長、総務部員2名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務主任、進路主任、総務主任、第2学年主任)、主任教諭(生活指導主任、第3学年主任、第1学年主任)
計10名
- (4) 協議委員の構成
近隣有識者、地域自治会長、区教育委員会、近隣中学校長、地域消防署長、学識経験者、学校医(産業医兼任)、同窓会会長、PTA会長
計9名

2 令和4年度 学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他
- 第1回 令和4年6月29日(水) 内部委員10名、協議委員5名
協議委員の委嘱、委員紹介、評価委員の委嘱、令和3年度学校経営報告、令和4年度学校経営計画、本校の近況(新校舎完成後の改築工事情報を含む)と本校の課題等の説明
- 第2回 令和4年11月19日(土) 内部委員10名、協議委員6名
各分掌から教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見交換
学校評価アンケートの形式検討、協議「学校評価アンケート(案)について」
第1回での外部委員の意見を踏まえ、新学習指導要領と教材等を展示、行事のスライドを上映
- 第3回 令和5年2月1日(水) 内部委員10名、協議委員6名
入学選抜結果、令和4年度の教育活動に関する報告、地域防災、学校評価アンケート結果分析
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
- 第1回 令和4年11月19日(土) 内部委員2名、協議委員3名
学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
- 第2回 令和5年2月1日(水) 内部委員2名、協議委員3名
今年度の学校評価アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
「学校への満足度」、「学校指導の充実度」、「家庭・地域連携の充実度」
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模 * ()内は令和3年度の平均
- | | | | | |
|------------|---------|---------|---------|-------|
| ・12月 全校生徒 | 対象：607人 | 回収：562人 | 回収率：93% | (79%) |
| ・12月 保護者全員 | 対象：607人 | 回収：399人 | 回収率：66% | (56%) |
| ・12月 地域住民 | 対象：20人 | 回収：13人 | 回収率：65% | (30%) |
| ・12月 教職員 | 対象：47人 | 回収：40人 | 回収率：85% | (92%) |
- (3) 生徒への主な評価項目
①学校運営(8質問) ②学習指導(2質問) ③生活指導(3質問) ④進路指導(1質問)
⑤いじめ防止(1質問) ⑥体罰防止(1質問)の6分野 計16項目で実施した。
- (4) 評価結果の概要 (学校及び校長への意見・提言内容)
生徒及び教員には、情報化を進めformsにより効率よく実施できた。保護者回収率は上昇した。地域住民には町会との連携で実施できたが、配布枚数が前年度と異なるため、単純比較はできない。対象者に関わらず、「わからない」と回答する率が前年度に比して増加した。実施前の説明を丁寧にする必要がある。
- ① 学校運営に関する項目について * ()内は令和3年度の平均
- | | |
|--------------------------------------|---------------|
| ○ 「生徒がいきいきと充実した学校生活を送っている。」で肯定している割合 | |
| 生徒：1年生83%、2年生79%、3年生73% | 平均78% (80%) |
| 保護者：1年生87%、2年生81%、3年生81% | 平均83% (78%) |
| 地域：62% (53%) | 教職員：93% (83%) |
- <評価・意見等> 保護者の肯定率は上昇傾向にある。コロナ禍は続いたが、感染症対策をした上で

行事等できることが増えたことが、生徒や保護者の肯定的な理解につながった可能性がある。

- 「教職員が協力しあって教育活動を行っている。」で肯定している割合
生徒：1年生 76%、2年生 78%、3年生 71% 平均 75% (78%)
保護者：1年生 64%、2年生 75%、3年生 68% 平均 69% (69%) 教職員：73% (66%)
〈評価・意見等〉 大きな変化はない。教育活動の充実には、教職員の組織的な体制の整備と組織的な連携が必要である。教職員自身の肯定率が上昇したのは喜ばしいことである。

- 「防災教育や安全教育について取り組まれている。」で肯定している割合
生徒：1年生 75%、2年生 80%、3年生 77% 平均 77% (82%)
保護者：1年生 67%、2年生 78%、3年生 69% 平均 71% (73%)
地域：46% (28%) 教職員：96% (88%)
〈評価・意見等〉 指定校として取り組む中で内容の充実を図った。しかし、具体的な地域連携等は計画通りに実現できなかった。今後、さらに連携強化を図る必要がある。校舎改築に伴い校庭が使用できない状態が続くため、本校生徒の避難場所確保（日暮里南公園）に努める。

- 「学校情報を家庭（地域）に発信している。」で肯定している割合
生徒：1年生 68%、2年生 80%、3年生 66% 平均 71% (73%)
保護者：1年生 77%、2年生 84%、3年生 73% 平均 78% (57%)
地域：23% (25%) 教職員：71% (86%)
〈評価・意見等〉 学校ホームページや特に Classi といった紙以外の活用がかなり定着した。今後さらに学校情報を家庭に伝える体制を整える。地域に対しては、町会の事務所に学校通信をポスティングする態勢を作るなど、工夫していきたい。

- 「校舎改築に伴う代替施設は十分整備されている。」で肯定している割合
生徒：1年生 72%、2年生 75%、3年生 71% 平均 73% (78%)
保護者：1年生 82%、2年生 69%、3年生 70% 平均 74% (65%) 教職員：61% (54%)
〈評価・意見等〉 体育館完成により、特に保護者の印象が格段に変化した。近隣の中学校や公共施設等へ来年度以降も依頼し、校舎改築期間における本校生徒の教育活動に支障のでないように努める。

② 学習指導に関する項目について

- 「アクティブ・ラーニング型授業が行われている。」で肯定している割合
生徒：1年生 72%、2年生 71%、3年生 62% 平均 68% (57%)
保護者：1年生 41%、2年生 46%、3年生 46% 平均 44% (43%) 教職員：76% (58%)
〈評価・意見等〉 生徒は対面での授業内でも活動が増加し評価が上がったが、保護者は学校の様子を直接見る機会がないため、依然として理解が進まなかった。教職員が今後一層進めるとともに、その取組を積極的に情報発信していく必要がある。

- 「生徒の希望や学力に応じた学習指導を行うために、補習や講習等が行われている。」で肯定している割合
生徒：1年生 80%、2年生 76%、3年生 60% 平均 72% (65%)
保護者：1年生 48%、2年生 59%、3年生 57% 平均 55% (50%) 教職員：56% (67%)
〈評価・意見等〉 生徒・保護者とも実施要望は高い。生徒が実際に参加していても、実態が保護者には伝わりにくい。自習室開放や、まな部のような土曜講習をオンライン活用も含めさらに工夫し、生徒、保護者へ伝えて、積極的に実施していく。

③ 生活指導に関する項目について

- 「部活動が盛んに行われている。」で肯定している割合
生徒：1年生 60%、2年生 63%、3年生 54% 平均 59% (63%)

保護者：1年生 50%、2年生 56%、3年生 52% 平均 53% (48%)

地域：62% (41%) 教職員：44% (50%)

<評価・意見等> 感染症対策で制限された中でも少しずつ活性化してきている。生徒の要望に応えきれない現実が辛い。実際に生徒の動きが見える機会が増加し、保護者や近隣の評価は上昇した。コロナ禍で部員が減少した部活動もあり、部員確保が今後の課題である。

○ 「決まりを守ることや良識を育てるような指導が行われている。」で肯定している割合

生徒：1年生 68%、2年生 72%、3年生 54% 平均 65% (69%)

保護者：1年生 75%、2年生 66%、3年生 69% 平均 70% (66%)

地域：39% (43%) 教職員：57% (75%)

<評価・意見等> 生徒、保護者よりも教職員の認識に課題が見える。学年差を無くし、更に、生活指導における現状と課題、その解決に向けた共通認識を図り、組織として取り組む必要がある。入学生との傾向や時代の変化を見据え、指導上の不易流行の判断をしなければならない。

○ 「生徒の心身の悩みに関する相談や指導が適切に行われている。」で肯定している割合

生徒：1年生 60%、2年生 67%、3年生 58% 平均 62% (68%)

保護者：1年生 57%、2年生 59%、3年生 59% 平均 58% (60%) 教職員：60% (79%)

<評価・意見等> 自分が相談しないので他のことはわからない、ととらえる傾向があるのではない。今後も、スクールカウンセラーや外部機関との連携を強化し、相談態勢が存在することを周知する必要がある。

④ 進路指導に関する項目について

○ 「生徒の希望や適性に応じた進路指導が行われている。」で肯定している割合

生徒：1年生 69%、2年生 72%、3年生 69% 平均 70% (73%)

保護者：1年生 69%、2年生 65%、3年生 75% 平均 70% (61%) 教職員：83% (83%)

<評価・意見等> センター特別指定校の2年間で注力したことが、保護者の評価上昇につながってきたと思われる。学校全体の指導力を高めるために、指定終了後に活かす態勢を構築していく。

⑤ 「いじめ防止に対する指導がされている。」で肯定している割合

生徒：1年生 58%、2年生 64%、3年生 55% 平均 59% (69%)

保護者：1年生 48%、2年生 45%、3年生 52% 平均 48% (47%) 教職員：61% (87%)

<評価・意見等> 昨年度より肯定率が減少した。登校機会が増えたことで、人間関係構築に困難さを感じている生徒が存在する可能性がある。教職員が生徒の様子をきめ細かく見ていく必要がある。

⑥ 「体罰防止に努力している。」で肯定している割合

生徒：1年生 66%、2年生 71%、3年生 62% 平均 66% (72%)

保護者：1年生 54%、2年生 57%、3年生 59% 平均 57% (60%) 教職員：87% (98%)

<評価・意見等> 実際に間にする機会がなく、「わからない」と答える生徒が多い。教職員が、自ら体罰防止に努力している機会をとらえて生徒、保護者へ伝えていく必要がある。体罰は決してあってはならない。

(5) 評価結果の分析・考察（学校及び校長への意見・提言）

① 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

本校の教育課題における改善に向けた取組への理解が得られ、その成果が期待されている。期待されることにより、教職員の課題解決に向けた意欲と自信の向上につながっている。また、新校舎完成後の学習環境への期待が高く、竹台高校として確かなそして期待される学校経営を進めていく。

② 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- 生徒の人格形成、社会に巣立つために必要な能力育成のために学習指導、特別活動指導、並びに学校行事の精選と発展が必要
- 学習、学校生活、健康状況等を学校が発信していることを周知強化し、家庭との連携・協力体制

を構築

- 生徒一人一人の希望進路実現に応じた進路指導、保護者への的確な進路情報の発信と希望進路実現に向けた具体的な連携と協力
- 生徒に自己の将来をしっかりと見つめさせ、生徒が実感できる学力の向上と充実した学校生活の確立
- 長期休業日中、土曜講習等の意義とその必要性と成果の提示

4 学校運営連絡協議会および学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- 学校経営計画の具現化のための組織的な学校運営
- キャリア教育の充実と推進
- カウンセリングマインドを取り入れ、個を大切にす指導の向上と体制
- 学校ホームページ、PTAメールや掲示板等を活用した保護者、中学生、地域への情報発信
- 教育環境整備及び防災拠点としての観点から、新校舎の環境に寄せられる期待への対応
- 宿泊防災訓練や防災訓練を通して、防災教育の充実と地域連携を強める取組の推進

(2) 学習指導

- 授業規律を徹底し、生徒が主体的に学べる授業、学習指導方法の確立
- 質が高く、意欲的に学習に臨むことのできる授業の構築
- 補習講習を効果的に計画・実施することと合わせ、保護者にも周知する工夫
- 一人1台端末、ICT活用等による生徒のモチベーション向上を図る授業の工夫
- 自習室利用の促進と効果的な課題設定など自宅学習習慣の定着に向けた指導強化

(3) 生活指導

- 時間を守り授業規律を維持できる自律した態度の育成
- 生活指導部及び学年との連携による、効果的で相互理解のある頭髪・服装指導、遅刻指導の実施
- 部活動加入率の向上、成果をあげている部活動への支援による部活動の活性化
- 荒川区の行事参加、町会等の地域行事参加等を通じた地域との連携強化

(4) 進路指導

- 1年時からの進路指導の充実を図り、早い段階からの進路意識啓発の継続
- 担任による希望進路実現のための面接、並びに希望進路実現のための進路説明会を実施
- 外部機関との連携によるキャリア教育の検討と改善に向けた不断の見直し
- 生徒・保護者の希望進路を適える校内外の組織・機関等を活用した進路指導体制の確立
- 総合的な探究の時間に係る学年間の引継ぎ強化や学校としての態勢整理のための組織化

(6) 健康・安全

- 美化活動を指導重点項目とし、清潔で快適な学習環境の整備
- SCや都立版エリアネットワーク、YSW等を活用した生徒の心のケアと心の育成を図る教育相談機能の強化と教員研修の実施
- 防災教育を継続して推進し、自助・共助の精神の育成と地域連携の構築

5 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	2	0	0	0	0	3

6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延 0人 企画調整会議 0回 延 0人